

別記様式（第3条関係）

会 議 録

1 会 議 の 名 称

令和4年度第4回石岡市男女共同参画審議会

2 開 催 日 時

令和5年3月24日（金）午後2時00分から午後3時30分まで

3 開 催 場 所

石岡市役所 本庁舎2階 201会議室

4 出席した者の氏名

清山委員、高橋委員、古谷野委員、大塚委員、谷島委員、田神委員、岩堀委員（委員7名）

事務局：門脇室長、今橋次長、荒張課長、島田課長補佐、海老澤係長、平松主事

5 議 題

- （1）第2次石岡市男女共同参画基本計画後期実施計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について
- （2）第2次石岡市男女共同参画基本計画後期実施計画（案）について
- （3）市長への答申について

6 審 議 の 内 容

議事録のとおり

7 担 当 課 の 名 称

市長公室 政策企画課

1. 開会

2. 清山会長挨拶

3. 議事

清山会長により議事の進行

■ (1) 第2次石岡市男女共同参画基本計画後期実施計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について

事務局：資料1に基づき説明

会 長：1番について、「若い世代は十分だから啓発する必要はない」という意見だと思うが、この人は7ページ8ページの数字をもって「十分だ」と書いているのかもしれないが、私からするとこの数字は十分ではない。20代、30代でも7割を切っているというのは、啓発をしなければならない数字だと思うので、「数字自体は十分だとは言えない」と言った方がいいかもしれない。女性の就業継続率70%というのを国が数値目標にしている時に、これに到達するかどうかぎりぎりの数字で今の状態があるというので、数値の達成度についても意識はした方がいいと思う。

2番について、意識や考え方は自由ではないか、性別役割分担の考えを持っている人が疎外されており、市の意見と違うという形で疎外感を覚えるのではないかということ、どうなのかということが書いてあるが、男女共同参画の肝にあたる場所なので、これでいいと思う。あと、国の第5次男女共同参画基本計画を参照で付ければ、これは一般論なんですよというところで説明ができると思う。

委 員：この疑問が出てくる背景として、この資料を読んで、回答案にある男女共同参画の理念や目的がわからないと思った。回答案に書いてあるように、市民に対する男女共同参画の理念や目的の周知に取り組む必要があるというのはもちろんだが、それが例えば計画の最初の目的のところ、に反映されておらず、目的がさらっとしているという印象なので、最初のところに男女共同参画とはこういうことを理念・目的としているからこういう調査を行っていますというのを書いた方がいいのではないかと。

会 長：それは具体的にどこに入れた方がいいのか。

委 員：男女共同参画一般のことを言うのであれば初めのところに入れた方がいい。目的のところに入れば、具体的になぜこの計画、調査をやっているのかということが明確になるのではないかと。

会 長：修正を加えるのであれば、大事だと思うところをワンセンテンス加えろとか、違和を感じた部分について、修正案があれば考えてもらいたい。

事務局：パブリックコメントについて、ア・イ・ウに分けているが、事務局としてはウということで、今後の参考とさせていただき意見ということで区分けさせていただいている。今回は後期実施計画の見直しということで、基本計画根本に関する意見になるので、そういったところは参考にさせていただきということにしている。

会 長：基本計画があつて、途中の中間の見直しなので、一定の枠の中で直しを入れるということで良いか。今回新しい視点としてLGBTQを入れてきたというのは特別なこと。基本計画の途中で大きく項目

を足してやるというのは、がんばっているなという印象で、いいことだと思う。枠の中でこれくらいは大丈夫かなという修正があればおっしゃっていただきたい。あとは、今あるものの中に具体的な案があれば、できる範囲で、事務方との調整になる。

次に「男女が共に働きやすい就業環境の整備」というのは何ページか。

事務局：7ページ、10ページ、23ページ、32ページにある。「男女」という言葉を使っていることに関するご意見となっている。

会長：これは男女共同参画社会基本法というものに基づいて計画は作られているので、「男女」という言葉がベースになっていて、国もそうなっている。国の計画に沿った形で作っており、市の自由度というのももちろんあるが、法的なベースもあるので、今回はそこは変えるには至らないという感じがする。男女共同参画基本計画と言いながら、事実上は男女ではなくダイバーシティの部分になるので、少し大掛かりなものになってしまうので。国の計画に基づいてこのようにしているという回答案を作ってもいいかもしれない。

事務局：ここの書き出しとして、男女共同参画基本法等の法的な根拠に基づいて進めている、施策体系の中にあるということ、前段に入れさせていただく。

会長：次に4番は何ページか。

事務局：15ページの円グラフの下の3行部分になる。

会長：支援する内容を具体的に書いてほしいということを行っているのだと思うが、前回の会議で啓発だけしているように聞こえるから具体的な支援が必要なのではないかということを行ったが、そのことがいくつか出ている気がする。そこをきちんと分けて「理解を広めるための取組」と「多様な性に配慮した取組」というようになっている。

事務局：はじめは「周りの理解不足」だったが、「周りの人々の」という言葉を追加して、あとは「社会生活の様々な場面で生きづらさを抱えている場合があります。市民に向けて性的少数者に対する正しい理解を広めるための取組と多様な性に配慮した取組が求められます」という黄色い部分を追加して修正している。資料の回答部分と実際に修正した部分にずれが出ており申し訳ない。

会長：啓発と直接的な支援と2つの系統での取組が求められるという認識だということが書きこめていると思う。

次に5番だが、これは何ページか。

事務局：27ページになる。

会長：パパママスクールは一人目の子どもの親だけか。パパママスクールは、はじめてに限らず行くものだと私が勘違いしていて「はじめて」を取った方がいいと指摘したが、そのままが良い。

あとは「パパママスクール」という言葉が「パパママ」になってしまっているが、里親も含めて祖父母もLGBTQのカップルも含めていろんな人がいるので、わざわざ保護者の対象を限定して居づらくする必要はないのかなということ、文言を変えたものになるが、よろしいか。

委員：パブリックコメントを出された方が夫婦という言葉について検討してくださいということを行っている。いろいろな形になっていて様々な方がいて、夫婦という形が変わりつつあるので、「はじめて赤ちゃんを迎える方」という表現はすごく良い言い方だと思った。

会 長：次に6番目の避難所運営のところだが、これは何ページか。

事務局：33ページになる。

会 長：前の事業名が「女性の視点を取り入れた」という表現だった。男女共同参画の観点から、女性の視点がないと、地震の時に着替える場所や授乳する場所がない、隔てるものがないというのがあったので、ミルクの備蓄等も含めて計画に入れようということだったが、これに、もう一つ、性的少数者についても入れた方がいいのではないかとということで、運営についてはそのようにすると、「性別などによるニーズの違いを踏まえた」という表現になっているが、これは前からこの表現だったか。

事務局：これについても新しく入っている。もともとは事業概要のところ「各避難所に間仕切りを配備するなど女性の視点を取り入れた避難所運営を計画します」という風に案の時点ではなっていたが、実際そういった間仕切りはすでに避難所でやっているのだから、表現を変更した。

委 員：対象者が女性だけではなくてということだと思ふ。新しい性の方というのは変な言い方だが、そういった方を保護するというか、そういうことか。

会 長：すごく難しいが防災計画は防災計画。防災計画の中で多様な視点を取り入れるというのは、それはそれでいいと思うが、これは男女共同参画基本計画なので、様々な分野に男女共同参画の視点を取り入れないといけないという注文を付ける計画なので、全ての計画をこの中に入れ込むわけにはいかないし、そういうものではないということで、男女共同参画の視点がこういう分野でも必要ですよということ、覚えを新たにしてもらって、方向性や注意を促すというものだと思う。「こういうことも忘れないでね」ということだと思ふ。ただ、LGBTQの方たちは性自認や性指向の問題が入ってくるので、それはジェンダーの問題なので、ここにどうしても入ってくるが、そうするとだんだん女性が活躍するためには男性の育児参加が必要だから、男性に対しても注文が付く。男性の家事育児参加とか啓発とかに注文が付くという意見が出てくるのと同じなので、どこから見るかという重点の置き方だと思ふ。ただ、どうしても関連するので、当事者の人からすれば自分たちにもちゃんと目配りしてほしいというのは当然出てくると思ふ。これが「性別などによる」というだけで満足いただけるかどうかというのは自信はない。性自認が性別という考え方がある。

委 員：性別というと男女という認識になってしまう。

会 長：調査などをするとき「答えたくない」というのをに入れて、そういった人たちを除いて分析しないといけない。生物学的性による女性の差別とかがあるので、そこに生物学的男性が入ってきて、社会的に恵まれた環境・立ち位置にいるんだけど性自認は女性だからということで回答されてしまうと、統計データがかく乱されてしまう。そのことは国でも問題になっていて、自治体は調査や申請書の時は、市政を運営するために性別のデータをきっちり取っておかないといけない。

委 員：確かに男女共同参画だから、元が「男女」だから女性という言い方で今まではやってきたと思ふが、男女が男女でいいのかという時代になったので、女性だけでなくとあらゆる視点のところからのニーズを踏まえた運営を行いますよということだと思ふ。

会 長：事務局の改定案でいいのかなと思ふ。次の基本計画に向けて国の方も変わってくる可能性もあるし、国が変わらなくても自治体が先行するケースが多いので、自治体の方が先進的な取組をして計画を作っている可能性があるから、そのあたりを石岡市の方でも情報収集してもらって、次の計画づくり

の時に入れられたらいいのかなと思う。今回のところは基本のところが決まっていますので、その範囲で、というところになる。

次に、「偏見をなくす」という表現について、これは何ページか。

事務局：35 ページになる。ここの文言は「市民や市内事業所に向けたセミナーや市職員への研修を開催する等、誤解や偏見をなくす啓発を進めます。性的少数者に対する誤解や偏見をなくし、多様性を尊重する社会に向けて、誰もが生きやすい社会を目指します」と、素案の時点ではなっている。

会長：その「偏見」という言葉に対して注文が付いたということで、変更した内容で言いたかったことがここで具体的に書かれているので良いと思う。これは本当に立派だと思った。LGBTQ支援だとか男女共同参画とか、全ては少数派の意見から出てくるものなので、最初は偏見や誤解ではなくてそれが当たり前という風に思っており、3歳児まではお母さんが育てなければいけないというのは当たり前で、そんなのおかしい、偏見だという意見は少数だった。少数派の意見を偏見だと言って切り捨てるのはいかなものかというのはわかっていることだと思う。なんとも深くて哲学的な意見だと思って感心したが、それを受けて上手に作られたと思うので良いと思う。

次に8番については、またLGBTQについてだが、これは、申請書の見直しだけなんて、という、具体的な施策の中身をここに書いてくださいということを言われている。これは切実に困っていて、ここに書いてさえもらえれば、市へ要望も出せるし、市も書いたからには何かしてくれるんじゃないかと思うので、なるべく書き込みたいという当事者の意見かと思うが、本当に気持ちはわかるなと思いながら読んだ。そこで、記載方法だけではどうなのかというのを汲み取って、誰もが利用しやすいトイレへの見直しなど、あとは全部ここに書くわけにはいかないので「など」で良いのかなと思う。あとはトイレの問題というのは当事者が最も要求する項目で、職場も地域社会のインフラも、トイレを建て直すときに構造をちょっと変えるだけで、働きやすくなりすくもなるし、利用しやすくなって、みんなが不快じゃなくなると思うので、入れてもいいのかなと思う。ここの部分は、できれば4番の回答案のところ、「このような事業概要にしています」というのを入れれば良いと思う。「こういう課題が見えてくるでしょ、だから事業概要に入れました」という風に言っておけば、コメントした人も少しは、足りないと思ったとしても市の意思や努力は伝わるかなと思う。

9番は「概念が一般化している」というところを「概念が広まりつつある」という表現にして読みやすいようにするという事なので、良いと思う。

リスクリングについては、座学もあれば具体的な技術研修など職業訓練もある。「研修」だと狭く捉えやすいので、「リスクリング機会」という表現でいいと思う。学び直しの機会ということで、プログラミングなども入ってくる。フリーターの人を正規雇用にするときの職業訓練もリスクリングに入ってくるし、問題にもなっていたが、女性が育休を取っている時に勉強しなければいけないのかというのもあったが、どんな期間にしる、したかったらできるというリスクリングの機会というのが幅広いし、やり方も多様にできると思う。

最後に、初めのところに戻って、6ページの下の方に「令和4年度に実施した」というパラグラフがあるが、この1、2行目のところで、「若い世代ほど男女共同参画意識が浸透していますが、まだ十分ではありません。今後も継続した取組が重要となります。」という風にしたほうが良いと思う。

男性の30代、40代の約3割が性別による役割分担意識を持っているという結果になっており、20代男性では12.5%で大分少なくなっている。20代と30代で性別役割分担意識に差が見られるということだと思う。そうすると、男性の育児休業を取りたいという若者の意識と、中高年との差がものすごいギャップで出てくると関係があると思う。

■ (2) 第2次石岡市男女共同参画基本計画後期実施計画(案)について

事務局：今年度の審議過程において、LGBTQと、コロナなどの危機下における弱い立場の方の対応に関する視点の部分を今回特にご覧いただきたいということで、ご指導いただいたが、LGBTQについてはパブコメでも具体的に意見が出てきたので、盛り込めたと考えている。コロナについても緩和されつつあるが、災害時などにおける弱い立場にある方について、委員の皆様から肉付けすべきではという意見などがあれば、ぜひ承りたいと考えている。

事務局：前回の審議会の時に管理的職業従事者についての目標数値に関するご意見があったが、そこについて補足で説明させていただく。13ページの成果指標と目標値の見直しというところの2つ目に管理的職業従事者に占める女性の割合が書いてあるが、前回では平成29年度の計画策定時における数字を3.4%と記載していた。9ページにおいてはこれまでの計画を踏襲している兼ね合いで、管理的職業従事者に占める女性の割合を3.4%と記載している。これについて内容を精査したところ、国勢調査の数字は平成29年度の計画策定時は16.5%、直近の令和2年度の国勢調査においては14.4%であるという結果が出た。今後進捗管理をしていくうえで根拠となるデータを示していかなかった点については深くお詫びするとともに、そういった反省を踏まえて、「直近の国勢調査による」と明示したうえで改めて数字を入れさせていただいて、そのうえで最終目標値20.0%という形にしている。

委員：事務局に関して、お願いというか、少数の方の意見を聞きながらこの男女共同参画基本計画を策定していて、まだ何も固まっていない状態で始まっているので、今後の石岡のことも考えて、多様な社会をつくるには、そこを修正して行って、良いものになると思うので、今後とも頑張ってもらいたい。

委員：事務局の大変さは重々感じるが、数値の根拠は必ず示す必要があるし、全体をざっくり見て思ったのが、企業を対象にしたときに、研修などをやると思うが、トップの考え方によって企業は変わるので、職員が男女共同参画やダイバーシティというものを理解して動いていても、蓋をしてしまうのはトップだったりするので、そういうところで進めるにあたって、何かやっていけることはないかと感じた。

会長：そういうのを踏まえて啓発セミナーなどの企画をやってもらって、テクニックもあるので、劇的に変わった事業所のノウハウを広げる形でやっていったらいいと思う。あとは男性の育休も劇的に数字を上げたところのやり方を、どうやって職場の中でうまくやれたのかを啓発などでやると思う。

委員：保育園の保護者の方はお父さんが育休を取ったという声を聞くのが5年前、10年前よりは増えている。

委員：職場で1年間育休を取った方が出てきた。前にも取られて2人目だということだが、私は本来そう

あるべきだと思う。あとは、こうしてパブリックコメントを出してもらえるとというのがすごくありがたいと思う。

会 長：一番考えている人が一生懸命書いてくれていると、使えるものが結構あるのかなと思う。水戸市の未就学児の保護者 800 人くらいにアンケートを取った時に自由記述をたくさん書いてもらった。それは市にとって財産だと思う。市は幼児保育はそんなにニーズがないと思っていたが、実際のニーズはとても多い。何に困っているかという設問に回答者の多くが幼児保育に対して困っていると書いている。

委 員：今、給食費の話題がすごく出ている。いろんな市が無償化というのをやっていて、新聞で「これは国がやることではないのか」というのが出ていた。給食を無償化する自治体が多くて、その他の市はどうでしょうか、となっている。

会 長：園によって金額が結構違うので、その情報が明石市だとクリック一つで全部出てくる。入園時にかかるものやイベントなどの費用がすべての園で分かるようになっていて、そんなものは必要ないと思っていたんだけど、アンケートで必要だと思いますかと聞いたら、切実に必要だという回答が多かった。

このように当事者の意見というのを書いてもらえると、市の職員も、職員としての視点はあるけれども、いろんな人がいてすべてに目配りをするというのは大変で、頭の中で考えていることと現場で起きていることが少し違うというのはよくあることなので、そういう意味でもパブリックコメントは書いてもらえると発想が豊かになるし、現場はどうなっているのか調べるモチベーションにもなるので良いと思う。

委 員：保育について、保護者がシビアに見るのはやはり金額だが、金額が安いとそれに飛びついてしまう人もいるので、私としては私立園には私立園の特徴があって、その特徴に対してお金をかけるという部分もあるので、保護者が金額だけに捉われないで、園の質や、どういう特色でやっているのかというのを見ながら、それと金額で決めてもらうのが一番。ただ、保護者はやはりお金、というのがある。

会 長：園情報のところに金額と園の特徴はこういうところですよというのが情報提供としてセットで出れば、お金がかかるところはそれなりの理由があってかかるのだから、それでも行きたいという人たちは絶対いるわけだから、金額が違って当たり前な部分もある。

委 員：石岡市としては入園にかかる費用というのはホームページに載っていて、ただ、年間にかかる絵本代などの諸費用については載っていない状況になっている。

■ (3) 市長への答申について

事務局：資料 3 に基づき説明

委 員：基本目標 1 から 4 の中で鍵括弧の部分が計画案と異なっている。

会 長：計画案の通りに変更する。

基本目標 2 の最後のところで、「職場におけるワークライフバランスの積極的な推進に」という部分について、「積極的な推進」はおかしいのではないかと。推進に積極的に取り組むという表現が良いの

ではないか。

次に、基本目標3の社会環境の整備のところで、「出産・子育て・介護等を事由にした休暇・休業の取得を促進するとともに」と書いてあり「子育て支援や介護サービスの充実に取り組むこと」と書いてある。前回の審議会で、地域によって潜在的待機児がいるという意見があったが、それって結構重い言葉で、今まで石岡市には待機児はいないという風に把握していたが、委員の方から意見があって、潜在的待機児は実際には少しいるよさだということを確認したので、「子育て支援や」の前に「潜在的待機児の解消を含めた」という言葉を入れた方が、意識として、注意喚起として良いのではないかと思う。ただ、計画のところに直接的に関わる場所が無いので、今までは潜在的待機児はおらず、むしろ子どもが足りなくて困っているという話だったが、現状認識がずれてくるので、社会環境整備のどこに入れるのかというところがある。事業名を新たに入れる必要はないので、保育所の整備は通常の業務としてやっているのだから、潜在的待機児がいるよさだというのは現状で確認していて、地域によって保育所はいっぱいになっていて、入れなくて入るのをあきらめて、ほかの地域を回っていないという事実をもってある程度ニーズは把握できるとしたら、新たに調査しなくてもそこに一定のニーズがあるということは確認できている。あるいは今後そういったことがあった際に確認していくのは、その場で確認したり電話一本で済むので、そこまで大変な作業ではないので、事業を新たに追加するようなことではない。ニーズ把握のために予算化する必要はないとすると、定員が足りていないところの職員を増やすなどが必要。

委員：潜在的待機児は、人気がある園と人気がない園があって、人気がある園は1歳児が12名は取れないので他の保育園に行ってくださいという話になるが、取りたくても職員がいなくて取れなかったり、市としては、そこはいっぱいだからこっちに入ってくれば大丈夫というのがある。それでもやっぱりこっちの園じゃなきゃ入らない、というのがあるので、それが園に入らない理由になっている。

委員：ただ、職場と園の場所があまりにもかけ離れていると、行かせたい保育園はいっぱい、空いている保育園は遠い、そこだと仕事に行くときにそこへ送って行ってから行かなくてはいけないから、ものすごいロスになる。そうするとじゃああきらめようかとなる。

委員：どのくらい遠いのかにもよると思うので、石岡に住んでいて八郷へというのは無理な話。

委員：例えば土浦に職場を持っている人は土浦の保育所に入れた方がいいという風になるが、例えば旧市内に住んでいて職場が土浦にある場合において、八郷の保育園が空いているよと言われても無理。

委員：ただ、この話は5年か10年のうちにはなくなって、空きがどんどん出てくる。石岡の園はいくつかはなくなると思う。

委員：将来的に子供にかかる費用というのが発生する。そうすると自分たちの稼ぎでは子どもを育てるのは無理だという話になってしまうと、今のままで我慢しようという話になってしまう。そのあたりのところを救済してもらえないと子どもは増えていかないと思う。

委員：やはり国として教育費の無償化というのが大きく影響してくる。

会長：もし書くとしたら「潜在的待機児の問題も含め」という表現を入れてもらう。おっしゃる通り、深刻なものとしてそうでないものがあると思うが、石岡市に住んでもらおうと思ったら、ほかの地域より

子育てが楽だと思ってもらわないと引っ越してくるのは難しいので、親が住んでいるから近くに引っ越すとなっても、親の助けは得られても保育園の助けは十分でないとなったら、ほかの近くの町に住むという風になるのは十分あり得ることなので、その辺は少し意識して、将来人口推移があれば女性の労働力率が変わるという部分もあり得るので、どちらも数字を見ながら対応していく必要がある。

つくばは移住がすごいのでもともとの人口をベースに考えて、あとは女性の労働力率というのを見ると、全然数字が合わなくなってしまう。前提条件が変わっている。地域によって変わるので、石岡の場合、社会変動の中のどこに立つかによって数字は変わり得る。将来的に定員は余るはずと思ってももしかしたらいつまで経っても余裕が出ないということがあるかもしれない。

あとは4の最後のところで、「困難や課題を抱える方など、誰もが安全・安心に暮らしやすい社会の実現を目指し、施策の推進に取り組む」という文章がつながりが悪い気がするので、文章の中になじませる形で「困難や課題を抱える方などを支援し」という言葉を入れたいと思う。

4. 閉会